



藤まつり
新大田区百景の観音堂は、有志の手入れにより藤の花が一段と見事に咲きそろい、花の下はいこいの人でいっぱいになる。四月二十三日観音会は藤まつりの行事を行い、参詣者に串だんご二百本を振るまつた。



新井宿自治会連合会総会の開催

六月二日に開催された総会で、平成八年度の事業・決算・監査報告を承認し、平成九年度の予算を決定しました。

総会後に開催された懇親会では、自治会・町会役員永年在職者に対して西野大田区長から、退任副会長に対して矢花連合会長から、感謝状が贈呈されました。

受章者は次の通りです。
(退任副会長)
中井 正浩 横山 敏一

(役員永年在職者)
辻 忠一郎
染野 春夫 富田 記佳
小山善土幸 松村キヨ子
三林 歌子 小泉 育栄
水田 京子 中井富久江
稲田 君江 清水 徳治
平林清太郎 登坂 初枝
河崎 治子 時任 勉
堅田 清子 塚本 好美
中里 勝 菅沼 満子
北野 政義 久留米貞弘

(敬称略)



『綱引き』をやりませんか

綱引き同好会
いよいよスポーツをするのに良い季節になつてきました。皆さんいい汗流していますか？ テレビ番組にも、野球、ゴルフ等の中継がふえてきました。

何かスポーツをしたいと思つている方は大勢いらつしやると思いますが、新井宿地区に『綱引き』の同好会があるのをご存じでしょうか。発足してまだ二年目に入ったばかりでメンバーも不足気味で、練習にも事欠く同好会ですが、和気あいあい楽しく練習をして毎年体育の日に開催される『綱引き大会』を自指して努力しています。

老若男女、やる気のある方はどなたでもお気軽に左記までお問い合わせ下さい。
菅原 博 三七七五—八四三三
岩井信夫 三七七—一三六〇七
毎週木曜日 夜七時三十分より
大森三中体育館にて

編集後記

◎今回第一面には、歴史シリーズとして池上通りを取り上げてみました。
◎第二、三面では、新井宿地区の昔と今を比べ時代の移り変わりと共に、私達の生活の変化がうかがえます。
◎編集委員の小松幸子様、前田律子様、佐藤千早枝様が交代されました。お疲れ様でした。
(立石編集委員)

平成九年度の編集委員

- 編集委員長 南雲 博康
- 副編集委員長 高橋紗英子
- 副編集委員長 佐藤ヒナ子
- 編集委員 大井田浩見
- 編集委員 平林清太郎
- 編集委員 立石 康子
- 編集委員 飯野 綾子
- 編集委員 松浦力子
- 編集委員 篠原都代子

訂正とお詫び

前号二ページ三行目「船長米田百周年」は「船長米田「百周年」の誤りでした。慎んでお詫び申し上げます。

発行 わがまち大田新井宿地区推進委員会
編集 「わがまち新井宿」編集委員会
監修 新井宿地区自治会連合会
事務局 大田区新井宿特別出張所
大田区中央四—二—一四
三三三六—五三九一

わがまち 新井宿 Araijuku

自治会 東三丁目
自治会 四丁目
町会 三丁目
町会 一丁目
町会 中央四丁目
町会 新井宿六丁目
町会 新井宿七丁目
共同編集

池上通りと新井宿

交通機関の発達により、今の池上通りの混雑は異常です。その昔、周囲は田畑に囲まれ、少ない人家とすばらしい景色の街道で、主要交通路の脇街道の役割を果していたようです。

江戸時代の地誌に、新井宿村は「今の池上街道八景坂(一名薬研坂)を下り、右のかたに桃雲寺といへる禅刹に隣り木原氏の陣屋あり。うしろの山を木原山と称す。おかしの官道はこの山の上にして、所謂荒崎」とあり、また「往古東海道往還の係る所にして「和名抄」に「駅屋」とある」と記されています。

古代から中世にかけての古街道は、木原山などの台地上を通っていたと推定されます。近世の池上道は、品川宿から大井村—新井宿村—池上本門寺前—平間の渡しへのルートとなり、現在のJR大森駅西側の八景坂から木原山下を通るルートとなりました。近世の池上道の特長は、池上本門寺への参詣路となつていた点です。『徳川実紀』をみると、將軍が鷹狩の途中、ち寄るな、一般に將軍



が利用する道(御成道)であったことがうかがえます。時代が移り、大正四年(一九一五)には、大森駅に東海道線が通り、大正九年三月には、東京では最後となる乗合馬車が大森駅—池上本門寺前間に開通しました。当時運賃が電車の約四倍であったにもかかわらず、この乗合馬車が永く残つたのは、路線が比較的繁栄地にあつたことや京浜国道、中原街道のように電車や乗合自動車などの競争相手がなかつたこと、さらには

池上道の道幅が狭く、速力が早く大きい車体を走らせることができなかったこともありました。また、『東急電鉄五十年史』によると、昭和五年八月に乗合自動車が大森—池上間で営業を開始しました。当時は池上道は道幅が狭かつたため定員七、八名の小さなものでした。

関東大震災後の東京郊外の人口の急増と産業の発展には、交通機関の発達にもなう主要道路の改修が必要でした。池上道も拡張計画が作られ、昭和七年、震災復興計画にもとづき従来の四・五メートルの道幅を一五メートルに拡張する工事をを行いました。この時大森郵便局前から入四小へ抜ける道にルートを変更して現在の池上通りとなりました。

昭和二十六年二月十五日、東京に大雪が降った朝のスナップです。春日神社付近から池上方向を写したもので、蔵のある場所は現在の春日公園です。遠景の建物は現都民銀行の場所に建っていた目蒲百貨店です。
 (写真提供 中央一丁目町会 田中さん)



昭和二十六年二月十五日
 春日神社付近
 池上方向
 目蒲百貨店
 春日公園



昔と今

昭和三十年頃の池上通りのお菓子屋さん。

「懐かしい〜」人も
 「まだ、生まれてない〜」人も
 わかじむかじむタイムスリップ
 だんご、時代が飛んでくる〜

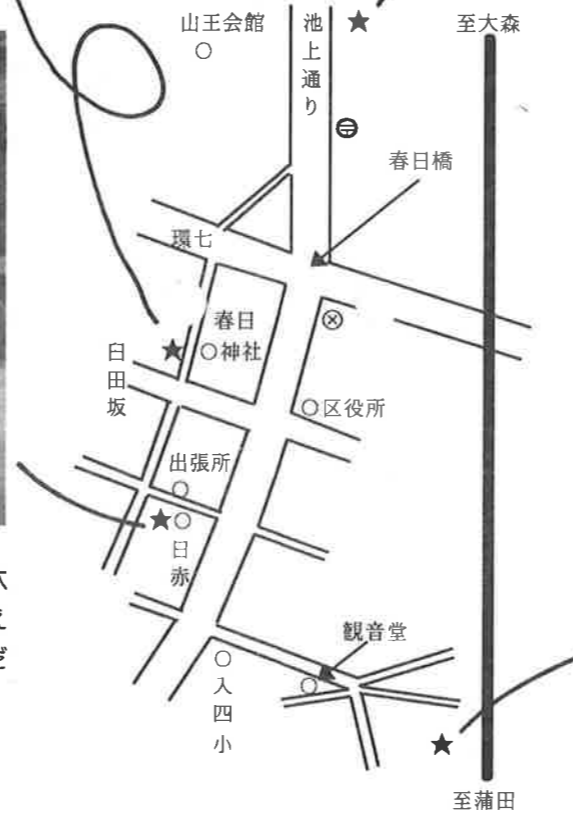
昭和三十年頃の池上通りのお菓子屋さん。

昭和三十年頃の池上通りのお菓子屋さん。
 まだ、アーケードもない時で、店先の柳の木とほんぼりが時代を感じさせます。
 (写真提供 山王三丁目東自治会 荒木 テルさん)



昭和初期。左端の線路は、現中央六丁目あたりの埋め立てのため、さえき山から土を運んでいたトロツコだそうです。

(写真提供 中央四丁目町会 平林 康臣さん)



牧場時代から残る松の木 (本多氏宅前)



当時の牛乳配達人は、西部劇に出てくるような帽子、ネクタイの服装でした。
 (写真提供 新井宿六丁目町会 本多 芳男さん)

大正六年新井宿河原作の本多牧場 (現中央三丁目一六四)